



スクールソーシャルワーカーだより 54

こと ほりかわしげとし horikawassw@gmail.com

ひとは人をよろこばせることが

一番うれしい

やなせたかし『もうひとつのアンパンマン物語』

☆ 一番うれしい事は… の巻 ☆

やなせたかしさんは七十歳の時、アンパンマンのアニメ化で人気マンガ家になりました。

「マンガ家の世界という満員電車の中に立ち、途中下車せず揺られ続けていたら突然、目の前の席が空いた」とたとえます。「マンガ家になってずっと、頼まれた仕事は断らず、誠実に取り組んで、良い仕事だけを心掛けてきた。好きな事だから続けられた。その努力が『運を招いた』」とも言っています。

やなせさんは生涯を振り返って「人間が一番うれしいことは何かずっと考えてきた。結局、人が一番うれしいのは、人をよろこばせる事だと分かった。実に単純なことです」その心で小さな子どもからお年寄りまで、誰にでも分かる言葉でマンガや詩を作り続けたのです。

☆

さあ、お母さんが我が子を育てるのは大変な苦勞です。ましてやお仕事をしながら育てるとなればその苦勞は計り知れません。悲しみや苦しみ、疲れ果てる日もあるでしょう。子育ては、遅かれ早かれ巣立っていく人(子ども)の世話を焼く母性的な役割と言えます。教師や看護師の仕事もそうでしょう。低学年の担任や保育士は典型的な母性職業と言えるでしょう。なぜならお母さんの苦勞の上に、ちっとも言うことをきかない子に、出来るまで同じことを言い続ける忍耐が加わるから…

★

やなせさんが望んだのは作品を読む人の笑顔。それだけを願って、決して見返りを求めず忍耐強く悲しみ、苦しみの中から作品を送り続けました。あなたの苦勞に、どこか似ていませんか？

悲しみや苦しみには相手があります。一人ではありません。読者を思う気持ちで仕事を続け、時折、笑顔が返って来ました。それだけを励みにしてやなせさんは努力出来たようです。

でも、さびしさには相手がありません。心の中に大切な人が居ない、だから寂しいのですから。やなせさんの心には常に読者がいました。それで悲しくても、苦しくても頑張れたのです。描き続け、作品という窓辺に立って、寂しい読者に気付いてもらえるのを待っていました。作品を通じ、その向こうに居る作者に気付いてもらえたら、やなせさんは報われます。寂しい人は、そばに誰かいる事に気付いたら、寂しくなくなることを知っていたに違いありませんから。

報われないまま役割を果たしてあるあなた。どうか、これからもずっと自分らしく在り続けましょう。何十年もの間、読者を信じましたやなせさんが居ます。



♪ 飛ぶんだどこまでも おそれないでみんなのために 愛と勇気だけが友だちさ